

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業名：一般国道376号 須々万バイパス	事業区分：一般国道	事業主体：山口県 延長：3.6km
起終点：自：山口県周南市須々万本郷 至：山口県周南市須々万奥		
事業概要：一般国道376号は、山口県山口市を起点とし、山口県岩国市へ至る延長約68kmの幹線道路であり、須々万バイパスは、周南市内の幅員狭小、線形不良区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的としている。		
H10年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H13年度用地着手
H14年度工事着手		
全体事業費	38億円	事業進捗率
計画交通量	10,500台/日	供用済延長
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.0 (残事業) 19.5	総費用 (残事業)/ (事業全体) 3.3/49億円 事業費：2.2/45億円 維持管理費：1.1/3.5億円
総便益 (残事業)/ (事業全体) 64/147億円 走行時間短縮便益：56/140億円 走行経費減少便益：7.6/5.5億円 交通事故減少便益：0.90/2.0億円	基準年：平成19年	
感度分析の結果：<残事業> 交通量変動：B/C=24.6 (交通量 +10%) B/C=14.2 (交通量 -10%) 事業費変動：B/C=18.3 (事業費 +10%) B/C=20.9 (事業費 -10%)		
事業の効果等：緊急輸送道路の確保、バイパス沿線開発の促進、地域産業の振興、都市部と中山間地域の連携		
関係する地方公共団体等の意見：現状の国道は、幅員が狭く、大型車の離合が困難なため、早期の完成が望まれる。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等：交差する県道下松鹿野線の改良が平成17年度に完了したため、須々万バイパスの重要性は高まっている。また、H8に第1次緊急輸送道路に指定され、H15に合併支援道路に位置づけられた。		
事業の進捗状況、残事業の内容等：平成14年度までに現道拡幅部2.4kmを供用し、引き続き残り1.2kmの整備を行う。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等：引き続き工事を推進し、平成20年代前半の全線供用を図る。		
施設の構造や工法の変更等：他の公共事業と施工時期を調整し掘削残土の有効利用をすることにより、コスト縮減を図る。		
対応方針：		
対応方針決定の理由：以上の状況を勘案し、整備効果も十分期待できる。		
事業概要図		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。